

施設見学メモ

Facility Tour Note

才尾 龍之介*1

Ryunosuke SAIO

要約 これまで千葉キャンパスでは、事務職員がオープンキャンパスや学校見学会等で施設案内をする場合、説明の内容を各事務職員の裁量に任せていた。そのため、案内する事務職員によって説明する内容に差異が生じることがあった。また、施設案内できる事務職員に限られており、その職員に通常業務への負担が生じていた。この現状を改善するために、千葉キャンパスの各科職業訓練指導員（以下「指導員」という）から各教室・機器の見学ポイントを教えていただき、共通の説明メモを作成した。今回は、千葉キャンパスの施設案内における見学メモの作成について報告する。

1 はじめに

これまで千葉キャンパスではオープンキャンパスや学校見学会等で施設案内をする場合、学務援助課の事務職員が施設の案内及び説明を行っていた。そのため、案内する事務職員によって説明する内容に差異が生じることがあった。また、千葉キャンパスの事務職員が、電気系、電子系、建築系、機械系の専門知識がない場合、この施設案内をすることができず、一部の職員に通常業務への負担が生じていた。

この現状を改善するために、千葉キャンパスの各科指導員から各教室・機器の見学ポイントを教えていただき、共通の説明メモを作成した。説明メモ作成にあたっては、専門知識のない事務職員でも一定のレベルでの施設案内ができるものを目指した。

2 施設見学メモ作成に向けてその1

最初に、施設見学メモの作成については、教室毎の説明文章を作成することとした。作成にあたっては、私自身の専門知識が全くないため、千葉キャンパスの各科の指導員に協力いただいた。指導員から各教室に設置されている機器やその教室で実施している授業の話の伺い、それを基に、説明文章を作成することとした。

説明文章の作成にあたって、機器の説明をする際には、見学者が理解し易い説明になるよう心掛けた。

例えば、旋盤(図1)とフライス盤(図2)の違いである。私は、自身で調べてみるまで、この2つの違いを良く理解していなかった。そこで機械系の指導員に、この

2つの違いはどのようなものか尋ねてみた。その結果は、旋盤とは、金属を円形に加工するもの(図3)であり、逆に、フライス盤は円形以外の形に加工するもの(図4)であるということを知った。



図1 旋盤



図2 フライス盤

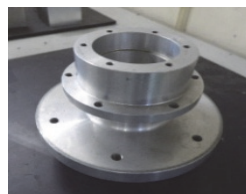


図3 試作品(旋盤)

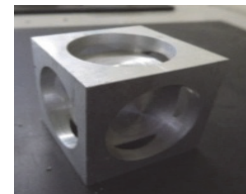


図4 試作品(フライス盤)

私は、なぜそのような形に加工できるのかについても尋ねてみた。指導員から、旋盤は、金属を削る刃を固定し、そこに材料を回転させながら刃で削るため、加工物は円形になること、反対に、フライス盤は、材料を固定し、そこに金属を削る刃を回転させながら削るため、加工物は円形以外の形になると聞いた。これらの説明は、旋盤とフライス盤を性能及び加工物を含

*1 学務援助科
School-affairs assistance division

め比較したことで、その違いが分かり易かったため、とても理解し易かった。

これは、説明文章を作成する上でのポイントになると感じた。前述した旋盤とフライス盤の違いのように、見学者に機器の用途及びその機器を利用した加工物について、関連する機器については比較、あるいは専門用語を簡単な言葉で意味が伝わるような表現の工夫を、各科の指導員に相談しながら説明文章を作成した。

3 施設見学メモ作成に向けてその2

次に、各科の指導員と相談し作成した説明文章を基に、施設見学メモの作成を行った。

図5は千葉キャンパスの材料加工室の施設見学メモである。作成のポイントは、その教室で使用している機器の説明文章とその機器の写真を番号で対応させることである。図5のように番号を対応させることで、専門知識のない職員が案内する場合でも、どの機器がどのように使われているかわかりやすいようにした。さらに、その機器で制作した物を小さく付けることで、その機器で行っていることのイメージがしやすいようにした。また、説明する機器の場所や、説明の際に制作物の例を出す等の補足を加えることで、事務職員が説明の際に、詳しく説明できるようにし、見学者により分かり易く伝わるようにした。



図5 説明メモその1

図5の説明メモを、他の職員にも見ていただいた。そして、「実際に説明する際は、説明メモが横向きだと持ち辛いのではないか？」というアドバイスをいただいた。アドバイスのとおり、私も確かに横向きだと説明メモが持ち辛く、説明に支障が出ると思った。そこで、説明メモを縦向きに直し持ち易くした。また、図5で作成していた説明文章とその機器の写真を番号で対応させていたものを、枠で区切ることにした。左側を説明文章、右側を機器の写真にすることで、図5に比べて見易くした。

図6(a)(b)が図5を修正したものである。

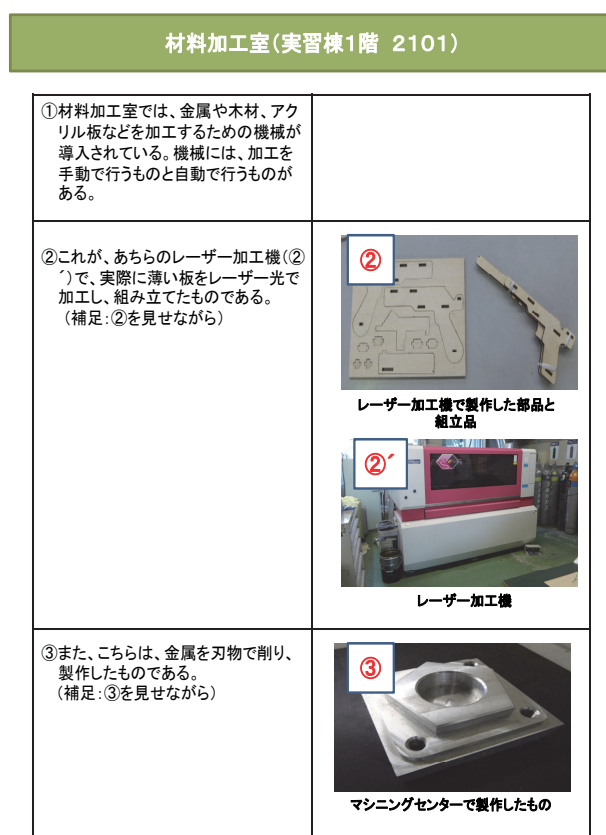


図6(a) 説明メモその2(1枚目)

材料加工室(実習棟1階 2101)




<p>④こちらは、旋盤(④:入口左側)と いて、刃物を固定し、材料を回転 させながら加工するもので、円形 のものを製作できる。</p>	 <p style="text-align: center;">④ 旋盤</p>
<p>⑤反対にこちらは、フライス盤と いて、材料を固定し、刃物を回転 させながら加工するもので、円形 以外のものを製作できる。この 2つがあれば、ほとんどのもの を製作することができる。また、 これらは一つのものを製作す るのに向いている。 (補足:入口右側)</p>	 <p style="text-align: center;">⑤ フライス盤</p>
<p>⑥逆に、あるものを大量生産する ときは、プログラミングで同じ工 程を繰り返すことができるマシ ニングセンターを使用する。</p>	 <p style="text-align: center;">⑥ マシニングセンター</p>

図 6(b) 説明メモその2(2枚目)

4 施設見学メモ作成に向けてその3

図 6(a)(b)の説明メモで実際に施設案内を行う形式で説明してみた。しかし、説明の所々で詰まってしまう、スムーズな説明ができなかった。この原因は何かを考え、主に2つの原因があるのではないかと考えた。

1つ目は、説明文章を常体にしてきたことが考えられる。実際の施設案内をする際は、当然敬体で説明しなければならない。そのため、この説明文章の場合、説明の際に一旦自分の頭の中で整理した上で、説明を行う必要がある。これを改善するために、説明文章を敬体にし、説明メモをそのまま読み上げるだけで説明ができるようにした。

2つ目は、説明メモが教室によって、図 6(a)(b)のように2枚になるものが出てきたことである。これは、説明の途中で説明メモを捲る必要があり、説明し辛くなっていた。これを改善するために、説明文章を見直し、省略できる部分を省略し、写真をその機器及び制作物が分かる大きさに縮小し、各教室につき1枚の説

明メモになるように作成した。図 7 が図 6(a)(b)を修正したものである。

材料加工室(実習棟1階 2101)


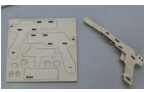

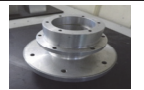

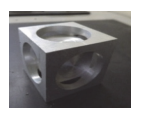

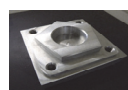
<p>①この材料加工室では、金属や木材、 アクリル板などを加工するための機 械が導入されており、加工を手動で 行うものと自動で行うものがあり ます。</p>	
<p>②これ(②')が、こちらのレーザー加工 機(②)で、実際に薄い板をレーザー 光で加工し、組み立てたものです。</p>	  <p style="text-align: center;">②レーザー加工機 ②'レーザー加工機で製作した部品と組立品</p>
<p>③こちらは、旋盤といて、刃物を固定 し、材料を回転させながら加工す るもので、円柱状のものを製作でき ます。 (補足:入口左側)</p>	  <p style="text-align: center;">③旋盤 ③製品</p>
<p>④反対にこちらは、フライス盤といて、 材料を固定し、刃物を回転させなが ら加工するもので、円柱以外のもの を製作できます。この旋盤、フライ ス盤があれば、ほとんどのものを 製作できます。また、これらは一つ のものを製作するのに向いています。 (補足:入口右側)</p>	  <p style="text-align: center;">④フライス盤 ④製品</p>
<p>⑤逆に、あるものを大量生産する ときは、プログラミングで同じ工 程を繰り返すことができるマシ ニングセンターを使用します。</p>	 <p style="text-align: center;">⑤マシニングセンター</p>
<p>⑥また、こちらは、金属を刃物で削り、 製作したものです。</p>	 <p style="text-align: center;">⑥マシニングセンターで製作したもの</p>

図 7 説明メモその3

5 まとめ

図 7 の説明メモは、これまでの意見を反映したものであり、専門知識のない事務職員でも説明し易いものが作成できたと思う。そこで、図 7 と同形式の説明メモを、施設見学で案内する各教室分作成した。

これにより、専門知識のない事務職員でも一定レベルの説明ができるようになり、説明する事務職員による説明内容の差異の統一及び一部の職員への負担が改善されたと考える。

私は、電気系、電子系、建築系、機械系の専門知識がこれまで全くなかった。しかし、今回のこの共通の見学説明メモの作成を通して、各分野について、少しは理解できたと思う。実際に、この見学説明メモ作成後からは、私が千葉キャンパスの見学案内を担当することも出てきた。説明の際は、まだ説明メモを読み上げているだけになっていることもあるので、これから

も時間の許す限り、各教室に足を運び実際の訓練現場を観察し、専門知識をもう少し理解するとともに、指導員が説明するような、見学者に分かり易く丁寧な説明に、少しでも近付くように改善をしていきたい。

6 謝辞

最後に、今回の施設見学メモの作成にあたって、千葉キャンパスの指導員の方には、見学のポイントだけでなく、各科の授業内容等についても教えていただき、また事務職員には、編集の際にアドバイスをいただく等、多くのご協力をいただいた。この場を借りて、感謝申し上げます。

参考

- 1) 千葉職業能力開発短期大学校ガイドブック